

促成トマトで、灰色かび病が例年より多く発生しています。 防除対策を徹底しましょう！

[現在の発生状況]

- ① 12月中旬現在、調査圃場における灰色かび病の発病株率、発生地点率はともに平年より高い(表1)。
- ② 発病株率および発生地点率は、例年2月頃から高まるが、本年は12月から高い値を示している(図1,2)。

表1 促成トマトにおける灰色かび病の発生状況(令和2年12月中旬現在)

発病株率(%)			発生地点率(%)		
本年値	平年値 ¹⁾	順位 ²⁾	本年値	平年値 ¹⁾	順位 ²⁾
6.5	1.1	1	38	12	1

1) 平年値：過去10年間のデータの平均値。

2) 順位：本年を含む過去11年間における本年値の順位を示す。

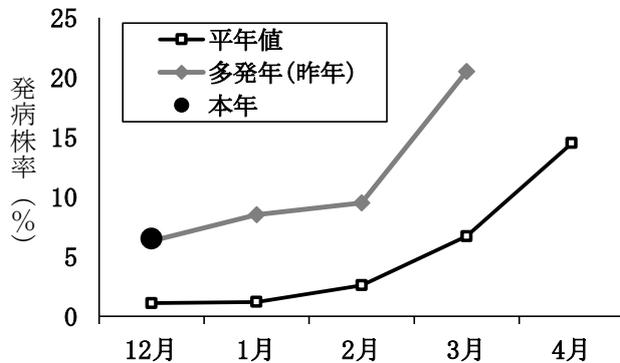


図1 促成トマトにおける灰色かび病の発病株率の推移

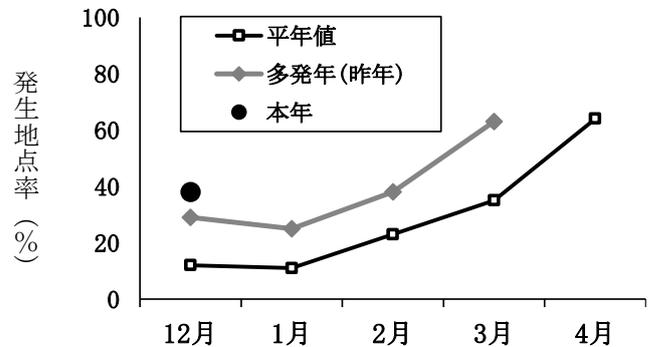


図2 促成トマトにおける灰色かび病の発生地点率の推移

注) 図1,2における多発年(昨年)の4月は未調査のため、データなし。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、暖房、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 罹病部や幼果に残った花卉はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、表2を参考にFRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 薬剤散布は、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続いて薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。

表2 トマト灰色かび病に登録のある主な薬剤（令和2年12月9日現在）

薬剤名	使用方法	本剤の使用回数	有効成分の種類	同左毎の総使用回数	FRACコード ¹⁾
アフットフロアブル	散布	3回以内	ペンチオピラド	3回以内	7
ゲッター水和剤	散布	5回以内	ジエトフェンカルブ チオファネートメチル	6回以内 6回以内 ²⁾	10 1
セイビアーフロアブル20	散布	3回以内	フルジオキソニル	4回以内 ³⁾	12
ファンタジスタ顆粒水和剤	散布	3回以内	ピリベンカルブ	3回以内	11
フルピカフロアブル	散布	4回以内	メパニピリム	4回以内	9
ベルコートフロアブル	散布	3回以内	イミノクタジン	3回以内	M07
ロブラール水和剤	散布	3回以内	イプロジオン	4回以内 ⁴⁾	2
ロブラールくん煙剤	くん煙	3回以内	イプロジオン	4回以内 ⁴⁾	2
スマレックスくん煙顆粒	くん煙	3回以内	プロシミドン	3回以内	2

1) 殺菌剤耐性菌対策委員会（FRAC）により、殺菌剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。

2) 但し、種子への処理は1回以内、は種後は5回以内。

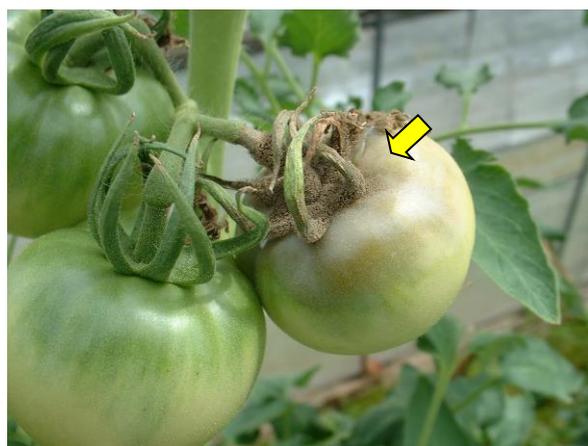
3) 但し、種子への処理は1回以内、散布は3回以内。

4) 但し、種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内。

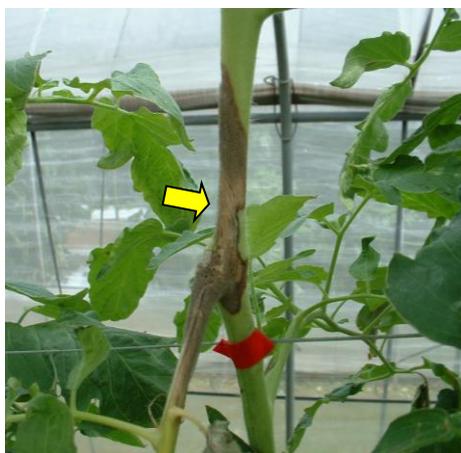
注) 農薬を使用する際は、ラベルに記載されている使用基準、注意事項を必ず確認のうえ使用する。



トマト葉の病徴



トマト果実の病徴



トマト茎の病徴